英語読解力向上につながるレクサイル（読解力）指数の活用

京都教育大学附属京都小中学校　今西 竜也

1. TOEFL Primary®・TOEFL Junior®受験で確認出来るレクサイル（読解力）指数とは …… p.1
2. 英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）を活用するメリット …… p.1
   2.1 インプットの重要性 …… p.1
   2.2 日本の英語教育におけるインプットの少なさ …… p.2
   2.3 教科書と英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）の違い …… p.2
   2.4 英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）を読む事は英語が得意な子の学習法？ …… p.3
   2.5 何故、レベルド・リーダー/グレイディド・リーダーではなくオーセンティック・リーダーを選んだのか …… p.3
3. 学校現場における英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）の導入 …… p.4
   3.1 好きな本を選ぶこと …… p.4
   3.2 取り組み時間について …… p.5
   3.3 読書を共有すること …… p.5
4. 評価について …… p.5
   4.1 ブックレビューを書いたり、発表したり、意欲的に読書に取り組む姿勢 …… p.5
   4.2 定数分析：英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）の読書とTOEFL Primary®リーディングスコアの伸び …… p.6
5. 実践事例 …… p.7
   5.1楽しく続ける英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）の読書 …… p.7
   5.2 読書の環境作り …… p.8
   5.3 読書の取組 …… p.8
   5.4 貸し出しシステムとカード …… p.8
   5.5 児童・生徒の様子 …… p.8
6. おわりに …… p.9

Danke Sehr

1. TOEFL Primary®・TOEFL Junior®受験で確認出来るレクサイル(読解力)指数とは

レクサイル(LEXILE)は、読む人の「読解力」と、本の「難易度」を表す数値です。アメリカのMeta Metrics社が開発した基準で、「文の長さ」と「単語の難しさ」によって算出されています。「単語の難しさ」はMeta Metrics社が独自に開発した500万語のコーパスを活用して決められています。読み手が自分のレクサイル(LEXILE)と同じ数値の本を読むと、本全体の75%程度が理解可能です。250Lごとに理解可能な割合が25%程度増減します。例えば自分のレクサイルが550Lの場合は、300Lの本を選ぶとほぼ100%理解することができますし、700Lの本を選ぶと全体の50%が理解できます。

世界の約60万冊(2023年1月時点)の書籍にレクサイルの数値が割り当てられています。新聞やウェブサイトを含めると1億部を超えます。本のレクサイルは、レクサイルのホームページでタイトルや作者名、ISBNを使って知ることができます。出版社のホームページやアマゾン等の通販サイトでもレクサイルの数値を提供されています。

レクサイルはTOEFL®のテストを受験すると、スコアレポートに表示されます。小中学生向けのTOEFL Primary®では、BR-420Lから750Lまでが測定されます。

TOEFL Primary®	BR-420L ～ 750L
TOEFL Junior®	570L～ 1160L
TOEFL iBT®	755L～ 1640L

※10Lの下にBR(Beginning Reader)があります。

2. 英語一般書籍(オーセンティック・リーダー)を活用するメリット

英語一般書籍(オーセンティック・リーダー)とはネイティブの英語話者が実際に手に取っている英語のテキストです。本や新聞、雑誌など、英語圏の国にある読み物であり、ジャンルや読み手の年齢、学術書やマンガなど様々なものがあります。対してELT(English Language Teaching)リーダーやグレイディド・リーダー(Graded Reader)は英語を第2言語として学習する人のために作られた本で、表現や語彙などに制約を設けて、第2言語学習者が読みやすいように書かれています。

2.1 インプットの重要性

英語の学習においてインプットの量が重要だと考えられています。インプット仮説を提唱したKrashen博士は、言語学習には理解可能なインプットが大量に与えられることが不可欠であると述べています。大量のインプットと聞くと難しいように感じるかもしれませんが、

自分が好きなものであればとっつきやすくなるものです。本には様々なジャンルのものがあり、自分の興味に合わせて選ぶことができますし、本を読みながら新しいことを知ったり、知らなかったことに出会ったりすることで、多くの量をどんどん読むことができるでしょう。ただ、選ぶ本が難しすぎたり、簡単すぎたりすると十分に自分の興味関心を満たせないこともあるかもしれません。レクサイルを用いれば、どのような本が理解可能であるかを知り、適切な本を選ぶことができます。自分のレクサイルと同じ本を選ぶと、全体の75％が理解可能です。知らない語が出てきても、いちいち辞書で調べることなく読み進めることで、新しい語を自分の感覚で習得していくことができます。また自分のレクサイルの前後100くらいの本を選ぶことで、よりスムーズに読んだり、より多くの語の習得に挑戦したりすることもできます。

2.2 日本の英語教育におけるインプットの少なさ

海に囲まれた日本では、陸地続きの欧米と比べると外国人と接することが多くありません。大都市では多くの外国人が住んでいたり訪れたりしますが、それでも日常的に英語を使う機会はありません。そういったEFL環境(English as a Foreign Language)では英語を使わないと生きていけないという状況はなく、必然的に英語に触れる機会は少なくなっており、英語のインプットも非常に乏しいです。

生徒が英語に触れる機会は、学校での英語の授業が一番多いでしょう。しかし教科書のような英語学習のためにつくられた本では十分なインプットを得ることができません。英語の本を読んで効果が出るには10万語以上読まないといけないと言われています。中高6年で考えると、1か月に1400語も読まなくてはならないのです。しかし中学校の教科書では、一つの単元で300～400語程度しかありません。日本人の英語学習者のインプットは非常に少なく、大学入学までのリーディングによるインプットは英語一般書籍1冊にも満たないと指摘されています。ちなみにハリーポッター 1冊の語数は少ないもので7万語ほどです。

2.3 教科書と英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）の違い

日本で使われている検定教科書は文法を学ぶためにつくられたコースブックであり、1ページ当たりの新出単語が多く、未習の文法も必ず含まれます。つまりインプットが少ないだけではなく、理解可能な本ではないのです。対して英語一般書籍は、年齢や好み、レクサイルに合わせて本を選ぶことで、オーセンティックな語彙や表現に多く出会えます。これは英語学習のためにつくられたものではなく、アメリカやイギリスなどの英語を話す子どもの興味や関心を満たすことができる本だからです。

しかし英語一般書籍ばかりを読んでいて、英語の力が伸びるわけではありません。教科書と英語一般書籍では使い方も異なります。教科書は精読と言って、ゆっくり、しっかりと新しいことを学びながら読み進めるための本であり、新しい語や文法を習ったり問題を解いたりするために使われます。英語一般書籍は自分の興味や関心に合わせて選び、理解できるレベルの英語をより速いスピードで読み進めて豊富なインプットを得ることができます。ですので、どちらか一方が優れているというわけではなく、目的に合わせてバランスよく用いることが大切です。

2.4 英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）を読む事は英語が得意な子の学習法?

英語での読書の効果はすでに多くの研究がなされていて、読解力や英作文、動機づけなどに効果があることが示されています。英語一般書籍には、まだ言葉が話せない赤ちゃんが読むものから、大人が読む科学的な専門誌までいろいろとあります。英語がまだ話せない日本の生徒にも適切な本が必ず見つかります。一番やさしい本だと、見開き1ページに英単語が一つしか登場しない絵本もあります。それぞれのページの絵や、本の途中に登場する挿絵なども理解するのを助けてくれるので、英語が得意な生徒の学習法とは限らないのです。

レクサイルを使った読書に3か月間取り組んだ京都の中学生のアンケート結果を下に示します。英語のテストの上位と下位に分けて、それぞれの生徒が英語での読書をどのようにとらえているかを調査したところ、全体の80％以上が「洋書を読むのは楽しかった」「洋書を読むのは勉強になった」と答えています。「洋書を読むのは難しかった」も非常に高いですが、「洋書のおおよその内容を理解した」も同じくらい高いので、難しいながらも理解できるレベルであったことが見て取れます。また下位の生徒では、挿絵で内容をイメージして理解することがより多く行われているようです。

	上位(44名)	下位(41名)	全体(85名)
洋書を読むのは楽しかった	84.1%	78.0%	81.0%
洋書を読むのは勉強になった	90.1%	90.0%	90.6%
洋書を読むのは難しかった	90.1%	85.4%	88.2%
洋書のおおよその内容を理解した	90.1%	90.2%	90.6%
英語のみでおおよその内容が分かった	47.7%	48.8%	48.2%
内容を理解するのに挿絵が役に立った	77.3%	90.2%	83.5%
わからない表現を辞書などで調べた	31.8%	22.0%	27.1%

2.5 何故、レベルド・リーダー /グレイディド・リーダーではなく オーセンティック・リーダーを選んだのか

英語を学習する場面では様々な本に触れます。例えば教科書や問題集、辞書などです。これらは英語を体系的に順序立てて学習するにはとても有効です。身に付けたい文法に特化した内容が用意され、例文や使えるようになるための問題など、緻密に計算されて作られています。英語がまだ堪能でない中学生に、高校生が習うような複雑な表現を習得させることは容易ではありませんし、シンプルな表現を接続詞や関係代名詞を用いてより複雑で詳しい内容の英語につながって行くことを考えると、これほど上手にできた学習のための本はありません。

しかしながら、教科書や問題集には「おもしろさ」が少ないのです。新しい表現や単語が毎ページに出てきて、語数も少ないのでは、英語を使ってストーリーを楽しんだり、新しいことに出会ったりすることはあまり起こりません。やはり普段習っている英語を使って、英語を読むこと、それを通してドキドキハラハラ胸を高鳴らせたり、おもしろい場面でわらったりしたいものです。また知らなかったことや

新しいものの見方を得られたら、こんなに楽しいことはありません。そのためには教科書や問題集とは別の読み物（英語一般書籍）が必要です。

また、世界とつながっているという気持ちを持って本を手に取ることが、児童生徒の気持ちを高鳴らせます。アメリカ出身のALTが生徒の持っている本の表紙を見て「I read the book when I was a kid.」と話しかけていました。ALTも生徒も楽しそうに本についてずっと話していました。生徒の手の中の本は、地球の裏側の小学生や中学生が手に取っている本なのです。オーセンティック・リーダーには、レベルド・リーダーやグレイディド・リーダーには出てこない表現や単語がたくさん出てきます。それは学習上まだ習っていなかったり、学習用として適切でない場合であったりしますが、実際には海外の子どもが日常で言ったり聞いたりしている表現なのです。子どものことばの習得の可能性を制限することなく、どんどん視野を広げてたくさん吸収してほしいものです。

3. 学校現場における英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）の導入

英語一般書籍の読書は理解可能なインプットを豊富に得るために効果的な方法であり、学習の段階に応じて読む本のレベルを調整することで、英語の得手不得手にかかわらず取り組むことができます。最近ではオンラインで英語一般書籍を読むこともでき、年間ライセンスを英語の授業の副読本として購入する学校もあります。

3.1 好きな本を選ぶこと

教科書のように全員で同じ本を読むのではなく、個人の興味や関心に合った本を選びます。英語は苦手でも理科が好きだからサイエンスに関する本を読む生徒や、好きなスポーツやそのスポーツの選手をテーマにした本を選ぶ生徒も出てきます。単純に絵がかわいいから、字が大きくて少ないから、などいろいろな理由で自分で決めて読み始めます。自分の好きな内容の本を選ぶことによって、学習者の自律性が高まります。

また、自分のレベルに合った本を選ぶことで、個別最適な学びにつながります。自分のレクサイルと同じ本を選ぶことで全体の75％が理解可能ですが、もっとすらすらたくさん読みたい生徒は自分のレクサイルより50〜100程度低いレクサイルの本を選ぶと読みやすいでしょう。また、興味のある分野についてもっとたくさん単語を知りたいのであれば、自分より少し高めのレクサイルを選ぶことで、新しい表現をたくさん学べます。

学びの過程では時折指導者の指定する本を読んだり、クラス全体で同じ本を読んだりすることも効果があると思われます。オンラインのデジタル書籍であれば、同じ本を人数分買わなくても一緒に手に取って読むことができます。

3.2 取り組み時間について

帯活動として授業時間の最初に取り入れるのがよいかと思われます。最初の5〜10分程度を読書の時間として、静かに取り組ませることで落ち着いて授業を始められます。授業の内容が盛りだくさんの時は読書の時間を短くするなど、無理のない取り組みが長く続けるコツです。読書の時間には、授業の持ち物や宿題のチェックもできますが、できれば生徒と一緒に静かに本を読んだり、1冊読み終えた生徒に感想を聞いたりするなど、指導者も英語一般書籍の読書に関わるとよいでしょう。また英作文など完成するタイミングが個人によって異なる場合でも、終わった生徒から読書をさせることもできます。

3.3 読書を共有すること

本を読んだうえで、他の人と共有するとさらに良いでしょう。本の内容や感想を指導者が質問して答えさせることで、どれほど理解できたのかが把握できます。ブックレビューを書かせて提出させたり、掲示したりすることによって他の生徒との交流もできます。おすすめの本や読みやすかった本という視点から紹介することで、他の生徒の読書にも影響するのではないでしょうか。また本を紹介するスピーチをさせたり、同じ本を読んだ生徒と対話させたりすることもいいかもしれません。

4. 評価について

4.1 ブックレビューを書いたり、発表したり、意欲的に読書に取り組む姿勢

英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）の読書において、どのような評価ができるでしょうか。インターネットを使えば、それぞれの本の難易度やページ数、語数などが分かります。一定期間のうちに読んだ語数や冊数などで評価をすることが可能ですし、指定した難易度の本の中から規定の数の本を読ませることでも評価につながると思われます。

しかしながら、それぞれが異なる本を読んでいるため、またじっくりすべてを理解して読む生徒や、さっと読み流して大まかな内容を把握する生徒など、読み方は人それぞれですので、読書活動そのものに対して同一の評価基準を設けて知識や技能を評価する方法は多くありません。

読書を評価のためだけにするとなると、楽しく読めない児童生徒もいるかもしれませんし、読むことだけを目的にしないことも一つのアイデアです。例えば読書をしてブックレビューを書いたり、読んだ内容の本について発表したりするなど、読んだ本をもとに周りの児童生徒に発信したり共有したりすることで読むことの意義が増えますし、それらを評価につなげることもできます。これらの活動に意欲的に取り組んだり、読書自体に意欲的に取り組んだりする姿勢も積極的に評価して動機づけを高めたいところです。

4.2 定数分析：英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）の読書とTOEFL Primary®リーディングスコアの伸び

英語一般書籍の読書によるインプットとTOEFL Primary®のリーディングスコアの伸びを比較しました。対象は中学2年生84名で、1年を通してほぼ毎回の英語の授業の最初に5〜10分程度の読書の時間を設けました。本は各々が自由に選び、レクサイルによる制限はしませんでしたが、レクサイルがどのようなものであるかは説明しました。全体の84名について、1年後のリーディングスコアの伸びが、3ポイント以上、1または2ポイント、1ポイント未満に分けてそれぞれのグループが読んだ本の数と単語数を示しました。また取組前のリーディングスコアによって、上位、中位、下位に分け、それぞれでも1年後のリーディングスコアの伸びによって3グループに分けて示しました。

全体では、スコアの伸びが大きいほど1年間に読んだ本の冊数、単語数が多いことがわかります。スコアが良く伸びた生徒の読んだ単語数は、伸びなかった生徒に比べほぼ4倍です。取組前のスコアで分けたデータを見てみると、どのグループでも読んだ単語数が多いほど1年後のスコアが伸びているのが見て取れます。つまり英語の力が伸びる生徒は多くの読書をこなしていることがわかります。上位のグループだけを見てみると、このグループだけスコアが伸びた生徒ほど読書の冊数は少なく、しかし単語数は多くなっています。リーディングのスコアが伸びてきた生徒には、単語数の多い本の方が効果が高いことを示唆しています。特記すべきは、下位グループのリーディングスコアの伸びが3以上の生徒たちの平均単語数がどのグループよりも多いことです。英語がまだ苦手な生徒が、自由に選択した英語一般書籍に楽しみを感じていることがとても衝撃です。教科書にはない魅力を英語一般書籍に見つけてくれたのではないでしょうか。

	スコアの伸び	人数	冊数	単語数
全体（84名） 平均106.39	3以上	24	15.7	81146.5
	1または2	32	15.2	55086.8
	1未満	28	14.8	26075.7
上位（24名） 108以上 平均108.83	3以上	8	14.5	88053.9
	1または2	9	15.2	49654.2
	1未満	7	15.4	36149.6
中位（34名） 106〜107 平均106.56	3以上	6	17.2	56214.7
	1または2	11	14.6	50824.2
	1未満	17	15.6	26535.4
下位（26名） 106未満 平均103.92	3以上	10	15.8	90579.6
	1または2	12	15.8	63068.6
	1未満	4	9.8	6493.0

5. 実践事例

5.1 楽しく続ける英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）の読書

・目標はハリー・ポッター！

「原本でハリー・ポッターを読もう」を合言葉に、無理なくたくさん英語に触れる機会を提供しています。ハリー・ポッターはLEXILE 700Lで約7万語です。中学2・3年生でのTOEFL Primary®ではLEXILE 750Lの生徒も出てきます。

・自分で選んで主体性を高める

クラスや学年が一緒でも、英語の力は一緒とは限りません。新しい表現や単語を学ぶのには教科書が良いですが、英語で楽しく読書するためには、それぞれに合った本を選ぶことが大切です。レベル別に並んだ本の中から自分がおもしろそうと感じる本を選んで読書に挑戦します。

・英語通信での紹介

英語科で発行している英語通信では、時々英語一般書籍の読書について取り上げ、児童・生徒の本の感想を紹介したり、たくさん読んだ児童・生徒の読書数を紹介したりしています。

・先生やALTのおすすめやテーマを決めて「オススメコーナー」を設置

英語教室の図書コーナーでは、季節や時事的な話題に関する本や、英語の先生やALTの先生のおすすめの本を集めてブックフェアをしています。火星探査機がニュースになった時は、宇宙に関する本やアームストロングさんの伝記を並べたり、ALTの先生が小学生の時に大好きだった本を並べたりしました。（写真はALTの先生オススメ“junie b. jones”シリーズ）

5.2 読書の環境作り

・英語教室にScholasticの英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）を中心に約2000冊を配架
・休み時間や放課後に、小学校5年から中学3年の希望者に貸し出し
・時期や生徒の能力・興味によって多読に取り組む学年も
・Scholasticのオンライン書籍を副読本としてライセンスを購入し、学校の生徒用パソコンや家の端末で読書が可能

5.3 読書の取組

・授業の始め5〜10分を読書タイムに
・本を選ぶ際は、レクサイルを確認しながら自分の興味で自由に選択
・読書タイムは先生も一緒に読書
・必要であれば質問や疑問にも対応
・80％以上が「楽しい」90％以上が「勉強になる」と回答（アンケート）

5.4 貸し出しシステムとカード

・レクサイルを使ってなるべく辞書を使わずにどんどん読める本を選択
・図書専用貸し出しカードを使って貸し出し
・感想カードを使って本の内容や語数、レクサイルなどを記録
・本の返却時には、おもしろかった場面やむずかしかった内容をインタビュー
・図書室のシステムではなく、紙の貸し出しカードを使って読書数を実感
・貸し出しカードを見て、本の選択や進度を確認・アドバイス

5.5 児童・生徒の様子

・主体的な態度

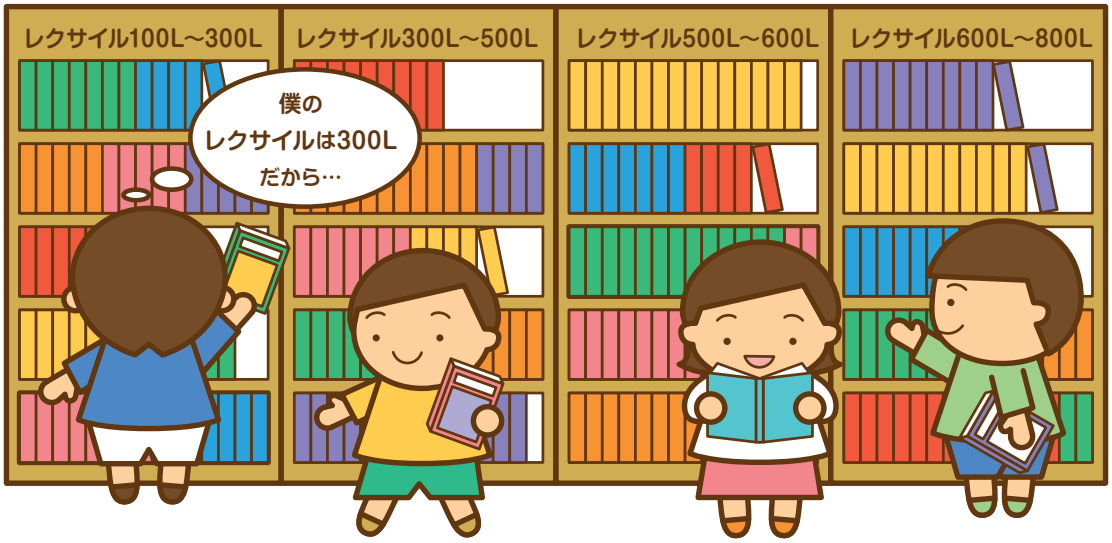
自分で選ぶことによって、読書に非常に積極的に取り組んでいます。自分の趣味や関心で選んだり、前の本で感じた難しさによって本のレベルを変えて選んだりしています。また、クラスメイトが楽しそうに読んでいた本を選ぶ姿も見られます。休み時間にリラックスして読むこともありますが、読書タイムではそれぞれが高い集中力で読んでいます。

・リアルなEnglishに触れる機会

登場人物のセリフでは、英語の教科書には載っていないような表現もあります。しかしそれらは、アメリカやイギリスの日常会話では普通に使われているものや、小学生や中学生の同世代がよく使う表現です。どんな意味なのかと頭を悩ませている姿や先生に質問することもあり、使える英語を学んでいます。

・理科や社会で習ったことも登場

科学に関する本や植物に関する本を読んで、他の教科や日常生活で得た知識とリンクして理解している姿もあります。理科などで使う専門用語も、意味を推測しながら読んでいるようです。また、GN(Graphic Novels)と呼ばれるマンガの本も人気があります。



6. おわりに

英語の学習においてもっとも大きな動機付けは、自分が英語を使えるようになっているという実感だと思われます。毎週何時間も英語を勉強して、自分の力が伸びている感覚がなければ心が折れてしまうかもしれません。それは野球やギターの練習と似ています。前までできなかったことができたり、より早くできるようになったりしたときに、自分の成長を実感し、また頑張ろうと思えるのではないでしょうか。英語の学習ではどのようなときにそんな感覚を得られるでしょう。それはテストでよい点を取った時ではないように思います。私が思うには、例えば外国人と対話をして話している内容が理解できたとき、外国のお土産のお菓子の箱に書かれた英語が読めたとき、上手に英語の歌が歌えた時でしょうか。英語を使って何かができたとき、うれしい気持ちとともに、普段の英語の勉強が役に立つということに気づきます。役に立つという実感を得る一つの方法として英語一般書籍（オーセンティック・リーダー）の読書をお勧めします。毎日の英語の勉強が、アメリカやイギリスやオーストラリアの人々が手に取る本とつながっているなんてわくわくするではないですか。英語の本を手に取ることが、世界につながる一つのドアであることをたくさんの人に知ってほしいと思います。

参考

今西竜也. (2021). レクサイルを利用した英書多読実践における中学生の情意的充実感. 京都教育大学紀要, 139, 63-73.

高瀬敦子（2010）『英語多読・多聴指導マニュアル』東京：大修館書店

種村綾子（2017）「大学における英語多読実践報告」『岐阜大学教育推進・学生支援機構年報』3 号　213-224.

畠山虞子（2005）「中学校における GradedReaders を使用しての多読指導の効果の研究」『岩手大学英語教育論集』7 号　pp.10-28.

Krashen, S. D. (1985) . The input hypothesis: Issues and implications. Torrance, N.Y.: Longman Limited.

著者紹介

今西 竜也

所　　属: 京都教育大学附属京都小中学校 英語科主任

学　　歴: 京都教育大学大学院教育学研究科修了

在　　籍: 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程、英語教育の研究

編集協力: 三省堂 クラウンジュニア

memo